

【文部科学省】授業時数特例校 指定

【埼玉県教育委員会】授業時数の弾力化に係るモデル校 指定

令和5年度

本校の教育課程について



熊谷市立三尻中学校

授業時数特例校(文部科学省 指定)

令和4年度

授業時数について特別な教育課程の**編成**

埼玉県教育委員会から「授業時数の弾力化に係るモデル校」の指定を受け、授業時数の弾力化による特別な教育課程を編成するための研究を進めました。
※具体的な研究内容は別紙「令和4年度 研究報告書【中間まとめ】」参照

〔研究主題〕 「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラムの工夫・改善
—各教科等を貫き、全ての学習の基盤となる言語能力の育成と活用—



令和5年度

授業時数について特別な教育課程の**実施**

「授業時数の弾力化に係るモデル校」(県教委 指定)に加え、文部科学省から「授業時数特例校」の指定を受け、研究を継続します。

授業時数特例校(文部科学省 指定)

授業時数特例校

授業時数の弾力化
(増減)のイメージ

学年ごとに定められた各教科等の授業時数について、1割を上限として標準授業時数を下回って教育課程を編成することを特例的に認め、下回ったことによって生じた授業時数を別の教科等の授業時数に上乘せし、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成や探究的な学習活動の充実に資する教育課程の一層の推進を図る制度

【標準授業時数】

教科A	教科等B	その他の教科等
-----	------	---------

1割を上限として標準授業時数を下回った教育課程の編成を認める

【授業時数特例校の活用】

教科A	教科等B	その他の教科等
-----	------	---------

時数の上乘せにより、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に資する学習や探究的な学習活動を充実

総枠(学年の年間標準授業時数の総授業時数)は維持

熊谷市立三尻中学校の特別な教育課程

授業時数の弾力化(増減)

1年生を例にします

教科等	標準授業時数	増減	変更後授業時数
国語	140	-10	130
社会	105	-2	103
数学	140	-2	138
理科	105	-2	103
英語	140	-2	138
総合的な学習の時間(未知タイム)	50	+18	68

熊谷市立三尻中学校の特別な教育課程

授業時数の弾力化(増減)①

総合的な学習の時間(未知タイム)

18時間 増

「総合的な学習の時間」を増やすことで期待できること

① 探究的な学習活動の充実

➡ 「自ら課題を発見し解決する力」の向上

② 各教科(国・社・数・理・英)の学習内容の一部移行

➡ 教科横断的でオーセンティックな授業の実現

※別紙「熊谷教育」参照

➡ 各教科等の学力の向上

熊谷市立三尻中学校の特別な教育課程

授業時数の弾力化(増減)②

大丈夫です！
それは、以下の取組
をしているからです。
これまで以上に、国
語の力は高まります。

国語

10時間 減

「国語」の時間を減らして大丈夫ですか？

① 国語の時間で育成する「言語能力」を明確にする。

※別紙「各教科等における『探究的な学習』で活用する言語能力」参照

② 各教科等の年間授業計画に、国語の時間で育成した言語能力を活用する場面を位置付ける。

➡ 教科横断的でオーセンティックな授業の実現

熊谷市立三尻中学校の特別な教育課程

授業時数の弾力化(増減)③

社会・数学・理科・英語

各2時間 減

各教科の時間を2時間減らすことができるのはなぜですか？

各教科の2時間分の学習内容を、「総合的な学習の時間」に移行することができるからです。

(例) 数学(1年生)

正の数・負の数の活用

総合的な学習の時間(1年生)

熊谷の暑さとその対策の現状を知る。
※正の数・負の数を活用してデータを整理する。

熊谷市立三尻中学校の特別な教育課程

授業時数の弾力化(教科間のつながり)

本校では、教科間のつながりを大切にしています。学習内容に関連性があれば、必要に応じて、単元等の実施時期を入れ替えるなどして、教科と教科をつないでいきます。

(例)国語(第1学年)

「画数と活字の字体」
7月実施
→ **12月実施**に変更

美術(第1学年)

「文字って面白い」 **12月実施**
※文字の形や色彩を考え、デザインする。

関連
付け

教科間の学習内容の関連性を確認するために、本校では、昨年度「オーセンテック課題事例集」を作成しました。事例集の一部は、別紙「令和4年度 研究報告書【中間まとめ】」に掲載されています。本年度11月には、HPに掲載する予定です。